

すぎのこ



幼保連携型認定こども園
尚綱大学附属こども園

大谷翔平は、なぜNYを楽しまないのか

毎日大谷選手の活躍に元気をもらっているという方は多いのではないのでしょうか。私もその一人です。

活躍もさることながら、先月ニューヨークで、ヤンキースとの試合に臨んだ後の発言が話題となりました。それは、ある記者の「ニューヨークのお気に入り場所はどこですか」という質問です。これに対して大谷選手は「街へ一回も出たことがないから分からない」と返答しました。ヤンキースの本拠地・ニューヨークは流行の先端を行く街であり、世界最大級の都市です。観光したり、ミュージカルを見たり、またグルメもたくさんあるだろうにと、記者も驚いたそうです。そして大谷選手は（街に出ていくことよりも）「いつ寝るかの準備を数日前からしっかりと計画的にやる必要があるかなと（考えています）」と答えています。

その記事を読みながら、野球好きなのはわかるが、なぜ大谷選手はここまでストイック（自分を厳しく律し、禁欲的に己を持する）なのだろうか、厳守し続けたらストレスが逆にたまり疲れたりきつくなったりしないのかと思いました。

でも、ベンチの姿をみると楽しそうですし悲壮な感じはしません。楽しんでいながらストイックでもある。やっぱり超一流は特別なのだと自分で納得？して考えるのをやめました。

しかしふと、ある本の解説の「頑張る人は夢中になる人に勝てない」という言葉を見て「これだ！」と思いました。「大谷選

手は無理をして頑張ろう、ストイックでいようとしているのではない。野球好きという以上に、野球に夢中になっているのだ。夢中だから、観光よりも寝ることを選んでいるのだ」と思いました。寝ることも夢中の一部なのでしょう。

「頑張る人は夢中になる人に勝てない」：これは孔子の言葉です。数多くの動機に関する研究ではそれを証明しているとも書いてありました。勝てないのかどうかは私にはわかりませんが、示唆に富んだ言葉だと思えます。

解説によると、頑張る人とは「外発的動機付け」によって物事に取り組む人のこと、夢中の人とは「内発的動機付け」で取り組み人のことです。外発的動機とは、「評価や賞罰等、外側から与えられた刺激によって喚起された動機」のことで、内発的動機とは「好奇心や



園内の森でタケノコほったよ

衝動等内側から湧き出る感情によって喚起された動機」のことです。内発的動機で行動する姿を大谷選手が表しているのだと思います。

ではなぜ「頑張る人は夢中になる人に勝てない」のでしょうか。それは「累積の思考量」が全く違うからだと言論付けられていました。夢中になれば知りたいという動機がわき、「思考量」が増えていくのでしよう。

心を寄せる環境が本園にあります

大谷選手のことを考えながら、本園が育てたい園児の姿も全く同じだと思いました。

本園では、園児が自然豊かな環境の中で、友達や先生と関わりながら、夢中になる姿をめざしています。ワクワクするような体験をしたり疑問をもって調べ、試し、試行錯誤したりする姿ともいえます。そのためには保育者は環境をどう設定すればいい

のか、また園児にどう関わればいいのか、そのことを私たちは研究し続けています。

本園ではそのことを「心を寄せる環境の設定」という言葉を使います。

様々な「心を寄せる環境」を準備し、園児が自ら進んで心を寄せていく。その心を寄せるものはさまざまに変化しても全く構わない。心を寄せる（夢中になる）体験が、園児の楽しい園生活につながり、それが生きる力の基礎となることでしょう。

特に本園の特色はその心を寄せる環境を多様に準備している点です。自然環境をただ与えるだけでなく園児が自然と心を寄せるように準備をしています。その姿が本園にはあります。それがわが園の最大の長所です。

自分の好きな道を夢中になつて取り組む大谷選手から、これからも目が離せません。

乳児がリンゴをのどに詰まらせて意識不明というニュースに、心が痛みます。快復を心から願います。

本園では離乳食完了期になるまでは、全て加熱して提供しており、果物の提供はしていませんが、今後も細心の注意を払い事故防止に努めて参ります。